

Section 1

性の多様性——性別について考える

人間と性について考える本書の冒頭のテーマとして「多様性」をとりあげることに特別な意味がある。

これまで長い間私たちは、性というと男と女のこと、性別と言えは疑うことなく男か女、その男と女は別々のもの、生理も心理も、もちろん性器も全く違う別のものというように考えてきた。元々 Sex という言葉自体が「切り離す」とか「切り分ける」という意味を持っていたことも、そうした思い込みを強化していたといえよう。

いま、このことが根本的に問い直されるようになった。

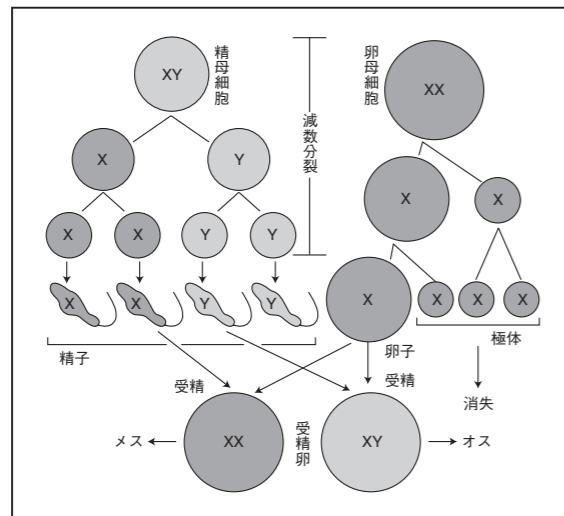
そこでいったい、性別は何によって生ずるのか、人間の性のあり方を考える上で根本的に大きな影響を及ぼすこの問題について、性の分化の過程を振り返りながら、その複雑さをたどってみたい。

1 性腺原基から精巣、卵巣へ

人間の性別が決まる上で大きな役割を果たすのは、まず性染色体である。精母細胞が分裂（※I-1-1）をしてX染色体をもつ精子とY染色体をもつ精子に分かれる。そのどちらの精子が卵子（X染色体）と結合するかによって性別が決まる。しかしXXの受精卵であればすべて女性になるのか、あるいはXYの受精卵がすべて男性になるのかというと、必ずしもそうではない。

今日わかってきたことに、Y染色体上に精巣決定遺伝子 SRY（※I-1-2）があるかどうか、性別を分ける重要な決め手だということがある。つまり、染色体はXXでも男性のようなからだ・こころ・性を持つ人、染色体はXYでも女性のようなからだ・こころ・性を持つ人がいるが、それはSRYの有無によるところが大きいのである。このことは何を意味しているのか。

人間としての発生過程で、妊娠6週目ぐらいまで男女の違いはなく、性腺原基は卵巣にも精巣にもなれる状態にあ



※I-1-1 性染色体の減数分裂
出典：大島清著『性がここまでわかってきた』光文社

※I-1-2 SRYとはSex determining Region Ygeneのこと。

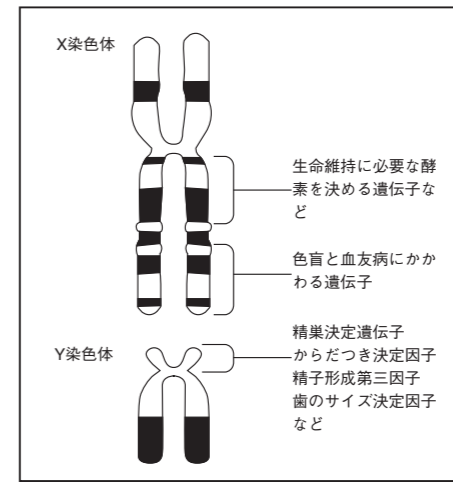
る。いわば未分化なのである。この性腺のもとになるものに対しSRYから指令が出されると精巣になり、出されないでいると卵巣になる。

ところが稀にはあるが、性染色体がXXであっても「転座」と呼ばれるメカニズムによってSRYを持っているケース（XX男性）が生じたり、SRYが欠損したXY女性が生まれることがある。すべて原因がわかるわけではないが、こうした事情も含め、多様な性分化の可能性にまず思いを馳せてもらいたい。このSRYの有無による性腺原基から精巣・卵巣への変化が、性分化の第一段階である。

つまり、通常の場合、Y染色体上にあるSRYによって胎児の性腺原基は精巣に変化し、SRYがなければそのまま卵巣を形成するのである。

※I-1-5-a 性別による罹病率の差

病気	対比
●男性	
動脈硬化症	2.5-1
呼吸器系のがん	8-1
脳溢血	多数
肝硬変	3-1
十二指腸かいよう	7-1
胃かいよう	6-1
筋萎縮症	ほとんど全体的に
心筋こうそく	7-1
肺炎	3-1
坐骨神経痛	大幅に
狭心症	5-1
膵臓がん	4.5-1
冠状動脈不全	30-1
痛風	49-1
血友病	100%
ヘルニア	4-1
震顫まひ（パーキンソン病）	大幅に
肋膜炎	3-1
壊血病	大幅に
脊髄ろう	10-1
●女性	
性器がん	3-1
甲状腺腫とそれによる眼球突出	6ないし8-1
甲状腺機能亢進	10-1
偏頭痛	6-1
骨軟化症	9-1
変形関節炎	3-1
胆のうがん	10-1
萎黄病（貧血症）	100%
胆石症	4-1
痔	多い
肥満	多い



※I-1-3 性染色体の遺伝子地図
「人類が誕生した時、Y染色体とX染色体は同じぐらいの大きさで長さだったと考えられるが、現在ではX染色体には約1098の遺伝子があるのに対し、Y染色体の遺伝子は約78と14分の1にまで減少してしまった」とあった。（石蔵文信著『なぜ妻は夫のやることなすこと気に食わないのか』幻冬舎新書より）。その理由として、細胞が分裂してふえていく時、DNAが複製される最中に何らかの間違いが生じた場合、染色体が2本あるXXは、もう1本の染色体を使って修復できるが「オスが持つY染色体は1本しかないために修復がきかず、壊れたらそのまま放置される。このため人類が誕生して以来、Y染色体はすり減り、小さくなってきた」などと説明されていた。

ところで、このY染色体はX染色体と比較してずいぶん小さいばかりでなく、SRYを載せているだけでそれ以外ほとんど生命維持に役立つものを含んでいないといわれる（※I-1-3）。それに比べて、X染色体は「全遺伝物質の5%を含んでいる。そればかりかX染色体には細胞の生命維持に不可欠な酵素と蛋白質を決定する遺伝子がびっしりとつまっている。X染色体がなければ生命の灯がともらない」（大島前掲書）のである。ちなみに不分離減数分裂等による染色体異常（※I-1-4）の場合、XO（ターナー症候群）の

※I-1-4 XXYをクラインフェルター症候群、XXXをトリプロX、その他にXXY型というケースもある。XOは女性3000人に1人、XXYは男性500人に1人、XXXは女性800人に1人程度、現われることがあるという。

※I-1-5-b 原因の大半が伴性遺伝子であって、ほとんど男性にしか認められない症状

中切歯の欠如	
エナメル質形成不全（歯のエナメル層欠如）	
汗腺形成不全（汗腺の奇形）	
先天性白内障	
赤緑色盲	
先天性難聴	
血友病	
脳水腫	
毛孔性角化症（皮膚の肥厚、脱毛）	
僧帽弁狭窄（心臓の二尖弁の狭窄）	
夜盲症	
パーキンソン症候群	
網膜剥離	